



2016年6月13日発行 第28号  
 事務局長 小島 彬  
 TEL/FAX 077-589-3724  
 akrkojima@ybb.ne.jp

### 滋賀支部大会の概要報告

5月15日12時半から14時まで、滋賀大サテライトルームで支部大会が開催された。議長に尼川会員を選出し、議案に沿って審議が進められた。51期の活動報告、決算報告が説明され、会計監査報告があり、承認された。52期の活動方針については、市民活動との連携を行っていく必要があるとの指摘があり、その点をふまえて活動を行うと事務局長が述べて、52期の予算とともに承認された。なお会計監査を長年行っていたが、幹事会に出していただいた石川会員から、会計監査は監事にする必要があるとの意見があり、今後幹事会で検討することになった。全国大会の議案については、財政問題に関して不明朗な点があるとして、承認されなかった。第1回幹事会が開かれ、代表幹事に畑、事務局長兼代表幹事に小島、事務局次長に柳澤、岸本の各氏の就任が報告された。(小島 彬)

### 『湖国と科学』第5号の発行に寄せて

日本科学者会議滋賀支部結成50周年を記念して、『湖国と科学』第5号を発刊した。発刊に至った経緯や編集委員長としての所感と同誌の末尾に〈編集後記〉として記載したのでご笑覧いただきたい。ここでは、『湖国と科学』が滋賀支部の機関誌であり、過去に第4号まで発刊されていたことを知る会員も今では少なくなっていると思われるので、創刊号以来の『湖国と科学』について簡単に紹介しておきたい。

創刊号は支部結成9年目の1975年8月に発刊され、琵琶湖総合開発計画と琵琶湖の汚染問題に関する3論文が掲載された。第2号は1976年8月に支部結成10周年記念として発刊され、田中昌人氏の「日本科学者会議滋賀支部の誕生まで」のほか、琵琶湖関連2編を含む6編が、第3号は1987年11月に支部結成20周

年記念として発刊され、岡本巖氏の「この20年の活動をふりかえって」のほか、琵琶湖総合開発と環境保全に関する5編を含む7編の論文が掲載された。第4号は1991年10月に支部結成25周年記念として発刊され、山本敬治氏の「結成25周年を迎えて」のほか、水問題シンポジウムの記録として6編、滋賀空港候補地問題について1編の論文が掲載された。各号ともにその時代の重要課題に関する支部会員の論文の他に、それぞれの期間の支部活動が詳細に記録されている。今回は前号発刊以来すでに4半世紀が経っており、2009年～2015年の活動しか記録できず、1992年～2008年の活動が採録できなかったのは残念であった。せめて5年に1度は『湖国と科学』を発刊し、支部活動を正確に記録しておきたいものである。(中村征夫)

### 支部結成50周年記念祝賀会開催

標記祝賀会が5月15日午後5時半より大津旧公会堂において立食形式で開催され、非会員も含む17名が参加した。畑代表幹事の挨拶の後、参加者全員による自己紹介を兼ねたスピーチがあり、各自のこれまでのJSAとのかかわりや今後への期待が語られた。(中村征夫)

### 滋賀支部創立50周年記念講演会の報告

滋賀支部では、今年8月に支部創立50周年の節目を迎えるのを記念し、支部の機関誌である『湖国と科学』の第5号を発行し、併せて記念講演会を5月15日に大津市で開催した。同誌に論文を掲載した会員を講師として、「滋賀県下の廃棄物問題」(畑明郎)、「滋賀県における原子力災害対策問題」(西山勝夫)、「滋賀県における脱原発市民運動の歩み」(野口宏)、「TPP協定「大筋合意」・「暫定協定」をどうみるか」(小池恒男)の4件の講演が行われた。

畑氏の講演では、これまで新聞等でも報道されてきた高島市放射能汚染木くず不法投棄事件など、同氏がこれまで関わってきた県内の廃棄物問題について、多くの写真を示しながら紹介された。西山氏は、滋賀県の原子力災害対策を検討するために、日本科学者会議滋賀支部内に設置された「原子力災害専門委員会」の設立の経緯から現在に至るまでの活動と隣接府県等の原子力災害対策を紹介し、これらの支部との連携を訴えた。野口氏の講演では、3.11以降の県内での脱原発に関する市民運動や自治体の動き、課題などが紹介され、科学者会議が市民グループとも共同して取り組むことの大事さが伝わった。小池氏の講演では、「TPP テキスト分析チーム」による16ページのテキストが資料として配られ、農業以外のさまざまな分野への大きな影響の可能性が紹介された。

会員外の市民の参加者も多く、全体で40名ほどの参加者からは講演後に多くの質問が寄せられ、議論が深まった2時間半の記念講演会であった。

なお、『湖国と科学』第5号には、上記の講演のもとになった論文の他に、支部50年の歩みや歴代事務局長による座談会、会員からの声などが掲載されていて全員に配布されますので、皆さん是非一度お読みいただきたいと思います。(柳沢淳一)

### 日本科学者会議第47回国大会定期大会報告

5月28～29日に中央大学理工学部で開催された「日本科学者会議第47回国大会」に参加したので、簡単に報告する。本大会の最大の議題は、「全国事務局職員による多額の横領事件」の財政問題であり、28日13～21時の大半がこの問題に費やされ、一部は29日午前に持ち越された。執行部からは、まず2016年3月5日の『第4回常任幹事会へのJSA財政問題調査・検討委員会の報告』が説明された。この報告書の取り扱いをめぐる、執行部提案の「職員名と横領金額を伏せることや、配布された報告書を回収すること」に反論が多くあったが、提案どおりになった。

次に、『財政問題特別議案』が提案され、「①刑事告

訴ではなく示談とし、元職員が20年かけて弁済すること、②弁済されない欠損金が残ること、③2001～2014年度の会計処理」について、激論が交わされた。私は、「刑事告訴すべき」と主張したが、執行部から「刑事告訴できる証拠資料が不足し、警察の家宅捜査で各種情報が流出するリスクがある」と反論された。欠損金について、京都支部の宗川氏が「歴代執行部の責任があり、歴代役員が自主的に募金して穴埋めすべき」との提案があったが、あまり賛同が得られなかった。2014年度決算の修正処理が提案されたが、反論があり、結局2001～2014年度決算報告と会計監査報告はすべて虚偽とし、2015年度決算報告と会計監査報告から再出発することになった。

定期大会議案は、多くの修正が加えられて採択された。大会決議は、「①安保保障法の廃止と辺野古建設に抗議、②軍事研究に反対し、高等教育機関予費の抜本的増額、③原発再稼働反対」の3項目の内容であり、②には、滋賀支部の西山幹事の「学術会議の動きに関する意見」が反映された。特別決議は、①「沖縄での米軍属の暴行殺人事件を許さず、人間の尊厳が守られる社会へ転換しよう」と、②「川内原発の即時運転停止と伊方原発の再稼働中止を求める」の二つ採択され、後者は私が起案を行った。

なお、滋賀支部発行の『湖国と科学』第5号は、欠席の熊本と佐賀支部以外の支部と全国事務局に配布し、熊本と佐賀が後日、本部から送付してもらうことになった。(全国幹事・代議員：畑 明郎)

\*\*\*\*\*

### 支部代表幹事退任について

西山勝夫

5月15日開催の支部大会時の幹事会で、支部代表幹事留任を推薦されましたが、辞退しました。なぜならば、JSAの存続に関わる極めて深刻な問題であり、最優先課題とされた「問題」に関する全国大会方針に私は反対でしたが、それは滋賀支部の大多数の意思とは異なると思われたからです。

これまでの不行き届きを支えていただき有難うございました。